

ペルテス病になつて

わかつたこと

小 四

ぼくがこのテーマにしたわけは、ペルテス病という病気になつて、ねたきりや車イス、松葉づえのけい験をして、体の不自由な人の不便さや、大変だということが実感できたからです。

まず、ちゆう車場のしよう害者のためのスペースに、健康な人がとめていたために、はなれた所にしか置けなかつたことです。その時のぼくは車いすでい動していたので、車と車の間がせまくて、乗りおりがすごく大変でした。い動のときも走っている車にぶつかり

そうになつたり、車のわきから人が出てきたときにぶつかりそうになつたりしました。今までは、少しだけ遠くなるだけかと思つていたのに、自分のその立場になつてみたら、きけんがたくさんひそんでいることがわかりました。

次に、松葉づえで歩いてるとき、階だんで後ろから来た人がぶつかり、階だんから落ちそうになり、こわい思いをしたことです。階だんだけでなく、ろう下も走つてはいけないという決まりがあるのに、走っている人をよく見ます。今までは走っている人がぶつかつてきても、少しいたいくらいだったけれど、今はとてもこわいです。このようなことをけい験してわかつたことは、自分が思つていた以上に、体の不

自由な人は、大変でこわい思いをして
いることです。そして、想ぞうだけで
はわからないことがたくさんあるとい
うことです。

去年の秋、家族といっしょに車いす
で祭りに行きました。人が多かつたせ
いもあり、地面がでこぼこしているこ
とに気付かず、車いすですまずいてし
まうなどこわい思いをしました。家で
は、バリアフリーが当たり前だけど、
町へ出てみると、きけんがたくさんあ
ります。あと、困ったことは、トイレ
でした。しょう害者用トイレは、どこ
にでもあるわけではないので、外出す
るときに、トイレがあるか心配でした。
ぼくは、しょう害のある人がどうし
たら安心してくらせるかを考えてみま

した。

一、バリアフリーや、しょう害者用ト

イレを社会に広げる。

二、決められたルールをぜったいに守

るようにする。

三、こまっっている人がいたら、助ける。

ぼくの足が治ったら、ルールを守り、
相手の立場になって行動できるやさし

い人間になりたいです。